

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成24年2月10日

【四半期会計期間】 第65期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）

【会社名】 中部飼料株式会社

【英訳名】 CHUBUSHIRYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 平野 宏

【本店の所在の場所】 愛知県知多市北浜町14番地6  
（同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中村区名駅南一丁目27番2号 日本生命笹島ビル17階

【電話番号】 052 - 562 - 2010（代）

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 西村 広司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）  
株式会社名古屋証券取引所  
（名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第3四半期 連結累計期間	第65期 第3四半期 連結累計期間	第64期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	91,132	103,827	121,804
経常利益 (百万円)	1,648	2,005	2,085
四半期(当期)純利益 (百万円)	887	1,086	819
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	428	862	499
純資産額 (百万円)	32,024	32,125	31,814
総資産額 (百万円)	62,380	65,499	60,409
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	33.53	41.75	30.99
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.3	49.0	52.7

回次	第64期 第3四半期 連結会計期間	第65期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.85	20.34

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第64期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4 第64期、第65期第3四半期連結累計期間及び第65期第3四半期連結会計期間の1株当たり四半期(当期)純利益の算定にあたっては、「従業員持株E S O P信託」の導入に伴い設定した持株会信託(日本マスタートラスト信託銀行株式会社)が所有する当社株式を自己株式に加算しております。

5 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありませんが、飼料セグメントにおいて子会社3社、関連会社1社が増加しました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結は行われておりません。

## 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による厳しい状況から徐々に持ち直しの動きがみられます。しかしながら、電力供給の制約や原子力災害の影響、円高の長期化、さらには欧州の政府債務危機による海外景気の下振れ懸念など、企業を取り巻く環境は依然として不透明な状況となっております。

飼料業界におきましては、主原料のとうもろこし価格が、米国の生産量減少により高値水準を維持しておりましたが、9月以降は世界的な景気後退懸念や飼料用小麦による代替、全米の在庫報告が市場予想を上回ったことなどから値を下げております。こうした原料状況を反映して飼料メーカー各社は、4月以降値上げをしてきた配合飼料価格を10月に値下げしました。

このような状況のもと、当社グループは、新たな市場開拓はもとより顧客の要望に合致した新製品の開発、積極的な販売活動の推進による売上拡大を図る一方、生産性向上、経費の削減などにより業績の向上に努めてまいりました。また、原材料の高騰に対応するため、糟糠類を独自の加工技術で多用することにより、とうもろこしを主体とした製品と機能が同等な飼料の開発に成功し、拡販に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,038億27百万円（前年同四半期比13.9%増）、営業利益19億38百万円（前年同四半期比19.6%増）、経常利益20億5百万円（前年同四半期比21.7%増）、四半期純利益10億86百万円（前年同四半期比22.4%増）となりました。

主力の畜水産飼料が平均販売価格、販売量ともに前年同四半期を上回ったことにより、売上高は、13.9%の増収となりました。経常利益は、減価償却費の増加やのれん償却額の発生などにより販売費及び一般管理費が増加したものの、畜水産飼料の販売量増加と原料ポジションの改善などで吸収し、21.7%の増益となりました。四半期純利益は、前年同四半期に特別損失に計上した資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額がなくなったことなどにより、22.4%の増益となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

### （飼料）

東日本大震災の影響が残り、業界全体の配合飼料販売量が前年同四半期を下回ることが見込まれるなか、当社グループの販売量は新規顧客獲得の増加及び差別化飼料の増加により、前年同四半期比3.2%増と好調でありました。また、原材料価格の上昇を受けて飼料販売価格の値上げを行ったため、売上高は、前年同四半期比16.5%増の884億7百万円となりました。セグメント利益は、減価償却費が増加したものの販売量増加と原料ポジションの改善により、前年同四半期比80.7%増の18億90百万円となりました。

(コンシューマー・プロダクツ)

自社開発の畜産物取扱量が減少したもののペットフードの販売量が増加したことにより、売上高は、前年同四半期比0.6%増の111億円となりました。売上高は増加したものの、原材料価格の高騰を販売価格に転嫁できなかったため、セグメント利益は、前年同四半期比34.9%減の2億15百万円となりました。

(不動産賃貸)

横浜流通倉庫の賃貸契約終了により一時的に空室となり、新テナントからの賃貸収入の発生が2月以降になることから、売上高は、前年同四半期比61.5%減の1億22百万円、セグメント利益は、前年同四半期比95.2%減の11百万円となりました。

(その他)

売上高は、前年同四半期比7.2%増の41億96百万円、セグメント利益は、前年同四半期比48.0%減の1億41百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

当社は、平成20年5月1日開催の取締役会において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について、決議いたしました。その内容は以下のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様の決定に委ねられるべきだと考えています。

しかしながら、当社の経営にあたっては、飼料業界及び畜産業界における幅広いノウハウと豊富な経験ならびに顧客・取引先及び従業員等のステークホルダーとの間に築かれた関係等への十分な理解が不可欠であります。株式の大規模買付提案の中には、たとえばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な情報が十分に提供されないものもありえます。そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式の大規模買付提案者との交渉などを行う必要があると考えています。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社では、多くの投資家の皆様に長期的に継続して当社に投資していただくため、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取組みとして、以下の取組みを実施しております。これらの取組みは、本基本方針の実現に資するものと考えております。

(a) 当社経営基本方針

当社は、昭和24年の設立以来「顧客の要求を見つけだしこれを満たす」という社訓を原点に企業としての社会的責任を全うし、飼料を通じて食生活に潤いと安全・安心をお届けし、価値の創造、需要の掘り起こしを図っております。

(b) 当社経営基本方針を実現するための取組み

当社は、経営理念を具現化するため、下記に取組んでおります。

(ア) 顧客の要望（安全・安心）を満たす工場展開を推進する。

(イ) 自社工場の特性ある設備で特性ある製品の提供を行い顧客に貢献する。

(ウ) 顧客の多彩な要望に応える商品開発のため、研究技術力の向上を図る。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成20年6月27日開催の第61期定時株主総会において買収防衛策を導入し、平成23年6月29日開催の第64期定時株主総会において株主の皆様の承認を受け、一部変更を加えた上で買収防衛策を継続いたしております。

(a) 買収防衛策導入の目的

当社取締役会は、当社株式に対する大規模買付行為が行われた際に、買付に応じるべきか否かを、株主の皆様に判断していただき、また当社取締役会が代替案を提案するために必要な時間を確保し、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とすることで、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大規模買付行為を抑止できる体制を平時において整えておくことが不可欠との結論に至りました。

(b) 大規模買付ルールの内容

大規模買付ルールとは、大規模買付者に対して、事前に当社取締役会に対し必要かつ十分な情報の提供を求め、大規模買付行為につき当社取締役会による一定の評価期間を確保した上で、株主の皆様に当社取締役会の事業計画や代替案等を提示したり、大規模買付者との交渉・協議等を行っていくための手続です。その概要は以下のとおりです。

(ア) 対象となる大規模買付行為

特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為といたします。

(イ) 意向表明書の事前提出

大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、まず当社代表取締役宛に、大規模買付ルールに従う旨の誓約及び意向表明書をご提出いただきます。

(ウ) 情報の提供

取締役会は、上記(イ)の意向表明書を受領した日の翌日から起算して10営業日以内に、大規模買付者に対し、株主の皆様の判断及び取締役会としての意見形成のために取締役会に対して提供していただくべき必要かつ十分な情報のリストを交付します。

(エ) 当社の意見の通知・開示

取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が取締役会に対し本必要情報の提供を完了した日の翌日から起算して60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付による当社全株式を対象とする大規模買付行為の場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間として与えられるべきものと考えます。

取締役会評価期間中、取締役会は独立の外部専門家等の助言を受けながら、提供された本必要情報を十分に評価・検討し、取締役会としての意見をとりまとめます。

また、必要に応じ大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、取締役会として株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

(オ) 株主意思の確認

取締役会が上記(エ)において大規模買付行為に対する対抗措置を取ることが相当であると判断した場合は、実務上可能な限り速やかに当社株主総会を開催し、株主意思確認総会の決議の結果に従い、対抗措置を発動するか否かを決するものとします。

(c) 大規模買付行為が行われた場合の対応方針

(ア) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該大規模買付行為についての反対意見を表明したり、代替案を提示することにより株主の皆様を説得するにとどめ、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。

大規模買付行為に応じるか否かは、株主の皆様において、当該大規模買付行為及び当社が提示する大規模買付行為に対する意見、代替案等をご考慮の上、ご判断いただくこととなります。

(イ) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、対抗措置を取ることがあります。当社が発動する対抗措置は、新株予約権の無償割当といたします。対抗措置を発動することの是非については、取締役会は、株主の皆様のご意思を尊重する趣旨から株主意思確認総会を開催し、対抗措置を発動することの是非について株主の皆様にご判断いただくことができるものとします。

(d) 株主・投資家に与える影響

(ア) 大規模買付ルールが株主・投資家に与える影響

大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、株主の皆様が代替案の提示を受ける機会を確保することを目的としています。これにより株主の皆様は、十分な情報のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについて適切な判断をすることが可能となり、そのことが当社の企業価値ひいては株主共同の利益の保護につながるものと考えます。従いまして、大規模買付ルールの設定は、株主及び投資家の皆様が適切な投資判断を行う上での前提となるものであり、株主及び投資家の皆様の利益に資するものと考えております。

(イ) 対抗措置発動時に株主及び投資家の皆様にご与える影響

対抗措置の発動時には、大規模買付者等以外の株主の皆様が、法的権利又は経済的側面において格別の損失を被るような事態は想定しておりません。

(e) 有効期間、継続、廃止及び変更

買収防衛策の有効期間は、平成23年6月29日開催の第64期定時株主総会終了後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、継続（一部修正した上での継続を含む。）については別途平成26年6月に開催予定の当社定時株主総会の承認を経ることとします。

但し、有効期間の満了前であっても、当社株主総会において買収防衛策を変更又は廃止する旨の決議が行われた場合、又は当社取締役会において買収防衛策を廃止する旨の決議が行われた場合には、当該決議に従いその時点で変更又は廃止されるものとします。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

買収防衛策は当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって導入されたものであり、当社の基本方針に沿うものであります。特に、買収防衛策は、平成23年6月29日開催の第64期定時株主総会において、継続することについて株主の皆様のご意思をお諮りしたこと、その内容として買収防衛策を発動する際には株主意思確認総会において是非を株主の皆様にご判断いただくとする合理的な客観的要件が設定されていることにより、その公正性・客観性が担保されており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するもの

であって、当社の取締役の地位の維持を目的とするものではありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5億7百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,535,508	26,535,508	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	26,535,508	26,535,508		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日		26,535		2,695		2,294

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 51,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,453,200	264,532	
単元未満株式	普通株式 30,508		
発行済株式総数	26,535,508		
総株主の議決権		264,532	

(注) 完全議決権株式(自己株式等)には、従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式401,700株を含めておりません。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
中部飼料株式会社	愛知県知多市北浜町 14番地6	51,800		51,800	0.20
計		51,800		51,800	0.20

(注) 1 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式1,000株(議決権10個)があります。  
なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれております。  
2 自己株式等には、従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式401,700株を含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、名古屋監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,288	1,046
受取手形及び売掛金	24,107	30,081 <sup>2</sup>
商品及び製品	1,811	2,055
仕掛品	684	540
原材料及び貯蔵品	4,685	4,165
その他	2,087	2,467
貸倒引当金	350	403
流動資産合計	34,314	39,952
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,822	6,584
機械装置及び運搬具(純額)	4,716	4,557
工具、器具及び備品(純額)	652	668
土地	7,137	7,148
建設仮勘定	299	716
有形固定資産合計	19,628	19,674
無形固定資産		
のれん	-	182
その他	2,199	2,086
無形固定資産合計	2,199	2,268
投資その他の資産		
投資有価証券	2,118	1,706
長期貸付金	1,456	1,260
その他	1,348	1,215
貸倒引当金	656	579
投資その他の資産合計	4,267	3,604
固定資産合計	26,095	25,547
資産合計	60,409	65,499

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,036	12,023 <sup>2</sup>
短期借入金	8,900	11,800
1年内返済予定の長期借入金	1,179	996
未払法人税等	388	431
賞与引当金	332	176
役員賞与引当金	35	-
その他	2,491	2,761
流動負債合計	23,363	28,189
固定負債		
長期借入金	2,862	3,312
退職給付引当金	338	362
債務保証損失引当金	-	89
資産除去債務	159	159
負ののれん	218	151
その他	1,653	1,108
固定負債合計	5,232	5,184
負債合計	28,595	33,374
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,695	2,695
資本剰余金	2,353	2,353
利益剰余金	26,918	27,422
自己株式	314	283
株主資本合計	31,652	32,187
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	225	171
繰延ヘッジ損益	63	233
その他の包括利益累計額合計	161	62
純資産合計	31,814	32,125
負債純資産合計	60,409	65,499

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	91,132	103,827
売上原価	82,029	93,670
売上総利益	9,103	10,157
販売費及び一般管理費		
運賃	1,796	1,860
飼料価格安定基金負担金	1,841	1,883
賞与引当金繰入額	265	156
貸倒引当金繰入額	133	126
のれん償却額	-	93
その他	3,446	4,099
販売費及び一般管理費合計	7,483	8,219
営業利益	1,619	1,938
営業外収益		
受取利息	19	19
受取配当金	53	45
保管料収入	136	77
負ののれん償却額	67	67
貸倒引当金戻入額	-	27
持分法による投資利益	-	2
その他	78	72
営業外収益合計	355	312
営業外費用		
支払利息	76	79
貸倒引当金繰入額	115	-
債務保証損失引当金繰入額	-	89
保管料原価	119	64
その他	15	11
営業外費用合計	327	245
経常利益	1,648	2,005

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	-	1
投資有価証券売却益	40	-
受取保険金	-	2
<b>特別利益合計</b>	<b>40</b>	<b>4</b>
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	19	57
投資有価証券評価損	57	6
ゴルフ会員権売却損	0	-
ゴルフ会員権評価損	1	6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	137	-
本部移転費用	-	25
<b>特別損失合計</b>	<b>215</b>	<b>95</b>
税金等調整前四半期純利益	1,472	1,913
法人税、住民税及び事業税	555	761
法人税等調整額	28	65
<b>法人税等合計</b>	<b>584</b>	<b>827</b>
少数株主損益調整前四半期純利益	887	1,086
<b>四半期純利益</b>	<b>887</b>	<b>1,086</b>

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	887	1,086
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	72	54
繰延ヘッジ損益	386	170
その他の包括利益合計	458	224
四半期包括利益	428	862
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	428	862
少数株主に係る四半期包括利益	-	-



【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式会社美濃部、北海三昭株式会社及び有限会社豊洋水産の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式会社大里畜産の重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。
(法人税率の変更等による影響) 「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.1%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.5%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.2%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額は30百万円、繰延税金負債は12百万円減少し、法人税等調整額は21百万円増加しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

取引先及び従業員に対し、次のとおり保証しております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)	
畜産ローン	5 件	35 百万円	畜産ローン	4件 23 百万円
得意先の金融機関借入保証	4	155	得意先の金融機関借入保証	4 66
従業員住宅ローン	1	1	従業員住宅ローン	1 1
得意先の畜産機械リース等の支払保証	8	55	得意先の畜産機械リース等の支払保証	5 41
計	18 件	247 百万円	計	14件 133 百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

受取手形	235 百万円
支払手形	2

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれん及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	1,705 百万円	1,895 百万円
のれんの償却額	-	93
負ののれんの償却額	67	67

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	211	8	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金
平成22年11月1日 取締役会	普通株式	211	8	平成22年9月30日	平成22年12月6日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会(注)1	普通株式	208	8	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年11月1日 取締役会(注)2	普通株式	208	8	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

(注)1 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金3百万円を含めておりません。

2 配当金の総額には、従業員持株ESOP信託口に対する配当金3百万円を含めておりません。

(セグメント情報等)  
 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飼料	コンシューマー・ プロダクト	不動産 賃貸	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	75,865	11,031	319	87,215	3,916	91,132	-	91,132
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	373	0	-	374	70	444	444	-
計	76,239	11,031	319	87,590	3,986	91,576	444	91,132
セグメント利益	1,045	330	229	1,605	272	1,877	405	1,472

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、畜産用機器等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 894百万円、金融収支619百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 137百万円が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飼料	コンシューマー・ プロダクト	不動産 賃貸	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	88,407	11,100	122	99,631	4,196	103,827	-	103,827
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	468	0	-	469	11	480	480	-
計	88,876	11,100	122	100,100	4,208	104,308	480	103,827
セグメント利益	1,890	215	11	2,116	141	2,257	344	1,913

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、畜産用機器等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 985百万円、金融収支685百万円が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益	33円53銭	41円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	887	1,086
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	887	1,086
普通株式の期中平均株式数(株)	26,484,343	26,031,513

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成23年11月1日開催の取締役会において、平成23年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 2億8百万円

1株当たりの金額 8円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月5日

(注) 配当金の総額には、従業員持株E S O P信託口に対する配当金3百万円を含めておりません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月9日

中部飼料株式会社  
取締役会 御中

名古屋監査法人

代表社員 公認会計士 中田 恵美  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 大西 正己

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中部飼料株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中部飼料株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。